

平成 28 年度

事 業 報 告

社会福祉法人 あひるの会

事業・業務報告 目次

I	社会福祉法人 あひるの会 総括	
	(1) 社会福祉法人あひるの会 総括	1
	(2) 平成28年度 評議員会・理事会報告	1
II	障害福祉サービス あかね園 総括	
	障害福祉サービス あかね園総括	2
III	各事業 総括	
	◇ 障害福祉サービスにおけるサービス提供プロセス	2
	◇ 利用者状況と工賃支給実績	3
	◇ 年間行事報告	3
	◇ 生活実習報告	4
	◇ 家庭との連携報告	4
	(1) 自立訓練（生活訓練）事業	5
	(2) 就労移行支援事業	7
	(3) 就労継続支援B型事業	11
	(4) 共同生活援助事業（あかねホーム幕張・幕張西・実籾・鷺沼（サテライト））	14
	(5) 障害者就業・生活支援センター事業	15
	(6) 日中一時支援事業及び体験利用の受け入れ	18
	(7) 障害者委託訓練事業	18
IV	業務報告	
	(1) 施設管理	19
	①環境整備（ヒヤリハット・事故報告）	
	②防災・避難訓練	
	③車両・運行管理	
	(2) 外部受け入れ（見学・研修・ボランティア）	20
	①見学、研修生受け入れ	
	②ボランティア受け入れ	
	(3) 広報	21
	①ホームページ	
	②会報の発行	
	③掲示板	
	(4) 生活	21
	①保健・衛生	23
	②給食	
	③余暇支援	
V	その他	
	(1) 職員研修（人材の育成）	25
	(2) 会議（情報の共有）	26
	(3) 権利擁護・虐待の防止	27
	①権利擁護・虐待防止の取り組み	
	②苦情解決・第三者委員会	
	(4) その他のサービス	
	①送迎サービス	

I. 社会福祉法人 あひるの会 総括

(1) 社会福祉法人 あひるの会総括

28年度は変化の年とし、新施設長のもとスタートしました。

そしてまさに社会の考え方と福祉制度の仕組みも変わりつつある状況の中で園生の作業(手作業から分別作業へ)も、就労への意識(選んで働く)も、そして保護者の状況(高齢化・亡くなる)など色々なことが変わり目に来ていることを強く思わされる一年でした。

法人の目標にしていた人の確保については利用者の動きは(働く)意識の変化もあり、大きくは進まず、良いか悪いかを別にして安定していました。一方、職員確保の方は福祉施設はどこも苦勞しているところですが、当方も6人の雇用はしても半年経たずで3名が退職という結果になり、難しさを実感しました。また、人材育成は研修の組み方など工夫していましたが、結果につながるにはキャリアパスの活用も含め、今後も運営側の努力と時間が必要と感じています。

法人の制度改正は国からの提示も遅く、タイトな時間の中でどこの施設も暗中模索、定款の変更や評議員等のお願いと承認もギリギリで何とか新年度への形を整えた状況でした。

最後に法人設立30周年は、これまでお世話になった方々(53名)をお招きし、長年のご指導とご支援を感謝すると共に新施設長のお披露目をしました。そして保護者37名、就労者親の会55名、ふれあい会(卒園生)29名と利用者84名、職員50名、計308名で式典を行ったあと、生のピアノ、テナーサックスの演奏付きで昼食を楽しみ、参加して頂いた方々に「良い会でした」と言って頂き、嬉しく思いました。

1年半かけて記念誌や式典の準備をしてくれた準備委員会のメンバーの方々にも心から感謝しています。利用者にとっても良い経験の場であると同時に、今後社会も制度も変わる中での次の10年へ向け、皆で気持ちを新たに作る会でもありました。

(柴田)

(2) 平成28年度 評議員会・理事会報告

<p>●平成28年5月27日</p> <p>議案</p> <ol style="list-style-type: none">① 平成27年度事業報告② 平成27年度決算報告③ 監事による監査報告④ 平成28年度補正予算(案)⑤ 役員の選任について⑥ 常務理事の選任について	<p>●平成29年1月13日</p> <p>議案</p> <ol style="list-style-type: none">① 定款変更について② 評議員選任・解任委員会運営細則案について③ 評議員選任・解任委員会の委員の承認について④ 就業規則(育児・介護休業等規則)の変更⑤ あかねホーム幕張第二H29.2.1に開所、申請の変更について⑥ 運営規程変更(あかねホーム)⑦ 平成28年度補正予算
<p>●平成28年9月9日</p> <p>議案</p> <ol style="list-style-type: none">① 評議員の選任(任期満了による改選)について② あかねホーム幕張第二平成29年1月開所について③ あかねホーム実籾平成28年12月末閉所について④ 平成28年度補正予算	<p>●平成29年3月24日</p> <p>議案</p> <ol style="list-style-type: none">① 評議員の選任について② 監事の選任について③ 指導監査実施後の改善報告について④ 給与規程変更について⑤ 運営規程変更(あかねホーム)⑥ 平成29年度事業計画⑦ 平成29年度予算

Ⅱ. 障害福祉サービス あかね園 総括

法人設立30年目と設立時からの施設長が交代となった“節目の年”は社会や福祉業界(主に就労分野)の変化も著しく、特に①利用者の変化 ②家族の変化 ③企業の変化への対応に追われた一年でありました。

①「利用者の変化」については 年度内の(中途を含む)新規利用者(15名)の年齢の2極化が顕著に見られ、6割が10代半ば(中学校卒)、残りの方は他施設利用者や離職者等の30代後半～40代の方となり、これまで多かった特別支援学校卒業生や20代の方の利用希望が極端に少なく、園に対する地域の利用者ニーズが変わってきている事が窺えました。

②「家族の変化」は、“親の高齢化”に伴う家族のサポート力の低下と“情報量の格差”です。家族の変化や年数が経過しても崩れることのない生活力の大切さを実感したと共に、高齢化した家族の情報取得力や情報選択力の低下を補うため今後は「必要な情報が必要な方に」をより意識した、園からの情報発信が求められます。

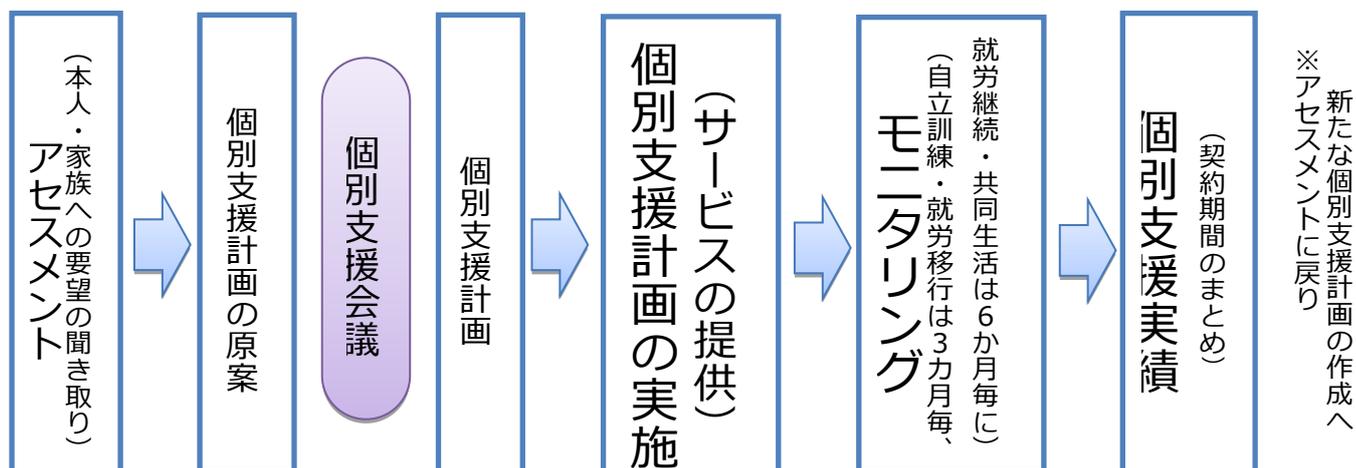
そして最後の、③「企業の変化」は、長年あかね園の工場で受注していた箱折等の簡易作業が大きく減少したこと、外作業班からも契約金の減額や日数制限等の提示を受け、あかね園の工場売上は大きな減収となりました。また、企業への就職支援では利用者、家族のエントリーの見送りや内定辞退等の慎重姿勢から就職件数が伸び悩み、受け入れる企業も実習を複数回重ねて採用に至る慎重型と面接のみで採用する省略型など、企業側の採用プロセスの変化に応じた園の対応が求められました。

本年度は、7月の「柴田麻子退任記念講演」や11月の「法人設立30周年記念式典」そして2月の「親と子の高齢化に伴うこれからの暮らしを考える研修会」など、園の設立時にご尽力頂いた方や利用者、卒園生を含めた母、父、そして兄妹等様々な方から、園に対してのたくさんの期待と励ましの声を聞く機会を多く頂き“次への10年”に向け、園としての方向性を確認できた貴重な一年でもありました。(松尾)

Ⅲ. 各事業 総括

◇障害福祉サービスにおけるサービス提供プロセス(自立訓練・就労移行・就労継続・共同生活援助)

各事業配置のサービス管理責任者の下、障害者総合支援法で定められたプロセスに沿って個別支援サービスが提供されました。支援のもととなる各種書類は契約事業や支給決定期間によって作成される頻度や時期が一部異なりますが、主な流れは以下の通りです。



◇利用者状況と工賃支給実績（自立訓練・就労移行・就労継続B）

	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援 B 型	3 事業合計
定員 () は 4/1 の実定員	20 名 (23 名)	30 名 (33 名)	30 名 (31 名)	80 名 (87 名)
利用契約者数	25 名	45 名	31 名	101 名
平均年齢	18.4 歳	26.7 歳	39.1 歳	28.1 歳
居住地域	県内 11 市 (内訳：習志野・船橋・八千代・市川・千葉・松戸・鎌ヶ谷・佐倉・浦安・市原・柏)			
利用率	98.1% (235 日開所)	95.7% (235 日開所)	94.2% (235 日開所)	96%
作業年間売上額	6,185,854 円	11,390,257 円	11,110,735 円	28,686,846 円
工賃支給合計額	3,900,260 円	7,354,700 円	8,070,350 円	19,325,310 円
月額平均工賃	14,080 円 (年度末賞与 1 万円含)	18,386 円 (年度末賞与 1 万円含)	23,736 円 (年度末賞与 1 万円含)	18,734 円 (年度末賞与 1 万円含)

◇年間行事 報告（自立訓練・就労移行・就労継続B）

月	行 事	内 容
4 月	新年度オリエンテーション	利用者、職員全体で新年度の所属班や担当職員の確認を行い、その後は各事業に分かれ、年間目標やあかね園のルールやマナー、そして個人目標の確認を行いました。
6 月	一泊旅行 於：軽井沢 (園生 80 名、職員 27 名、 理事長、常務理事参加)	「法人設立 30 周年の節目を祝う機会」、「各事業の特色を生かした旅行」との 2 つのテーマを基に、事業別の行動が中心ではありましたが、最後に全員が集まる食事会を催し、節目として相応しい旅行にすることが出来ました。
8 月	納涼祭 (来賓、園生、卒園生、保護者、 職員の 368 名参加)	法人設立 30 周年の記念撮影からスタートした今年度の納涼祭は例年通り、たくさんの方に参加して頂きました。屋台料理に併せて、盆踊り、ゲーム、カラオケ大会と大盛況に終える事が出来ました。
10 月	第 30 回あかね園バザー (保護者、園生、来場者含め約 1,400 名)	前年度の反省から会場レイアウトを微修正し、お客様の流れが園全体に広がるよう店舗配置を行ないました。30 年の謝意を伝えると共に、集大成として例年のプログラムを踏襲し、盛況の内に幕を閉じることが出来ました。
12 月	法人設立 30 周年記念式典 於：ホテルスプリングス幕張 (来賓 55 名・園生 82 名、保護者会 37 名、 ふれあい会 29 名、就労者親の会 55 名 職員 55 名の 計 308 名)	第一部の記念式典では設立時や日頃からお世話になっている皆様へ法人から感謝の意をお伝えしました。第二部の祝賀会ではピアノ、サックスの生演奏とコース料理を楽しみながら 30 年を振り返る機会になりました。
1 月	成人を祝う会 (成人者 11 名)	男性 9 名、女性 2 名の新成人の門出を祝福しました。祝辞、両親への感謝の言葉、スライドショーの上映を行ない、スライドショーを収めた DVD と集合写真、花束、記念品を贈呈しました。

◇ 生活実習 報告

実生活で必要とされる生活スキルの獲得と習慣化のきっかけづくりを目的に、各事業の目的や利用者の年齢、経緯、課題等をもとに、年間を通して各事業が様々なテーマを企画し、取り組んできました。

今年度はテーマや内容に応じて他事業からの利用者が参加しやすい様、事業間で情報共有を行いました。また、生活実習の取り組み後も家庭の継続的な取り組みをフォローしたり、同じテーマの企画を年間で繰り返す等の工夫をしながら、「個別性」と「継続性」に重きを置きながら取り組みました。

企画主体	自立訓練事業	就労移行支援事業	就労継続支援B型事業
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・あかね園 1 日の流れ ・対人マナーについて ・「相手の気持ちを考える」 ・体力トレーニング ・公共のルールマナー ・性別に応じた身だしなみ ・整理整頓（自分の持ち物） ・集中訓練 ・食事のマナー ・表現、表情の練習 ・外出のルール (外出する時の注意点) ・グループホーム体験利用 ・一日外出 	<ul style="list-style-type: none"> ・対人マナーについて (基礎) 挨拶・言葉づかい (応用) 就職に必要なマナー ・身だしなみについて (基礎) 整容面の確認 (応用) 就職活動に向けて ・金銭管理について (基礎) 金銭感覚を養う (応用) 適切な金銭の使用 ・金銭トラブルについて ・就職に向けての心がまえ (仕事や職種について考える) ・企業見学会 ・公共（職場）のルールマナー ・就職活動サポート (求人票の見方、履歴書記入・面接) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理、運動 ストレッチ（理学療法士協力） スポーツジム プール ヨガ 体重と歯磨きチェック 熱中症対策 ・調理実習（七夕、新年会） ・余暇活動（気持ちのリフレッシュ） カラオケ ボーリング パークゴルフ 外食（ホテル） 一日外出 ・身だしなみ 衛生面・整容・化粧の仕方 (就職に向けての身だしなみ含) ・入浴指導 ・整理整頓

◇ 家庭との連携 報告

生活の取り組みに園（日中活動）と家庭（夜間、休日）の連携は欠かせません。

利用者の経緯や課題が多岐にわたり、家庭の状況も様々な中、より個別での客観的評価や面接の必要性も高まっています。

また、今年度は利用者の年齢幅が 10 代半ばから 50 代までと幅広くなり、本人を支える家族の高齢化も話題に多く上がりました。特に「必要な情報が」「必要な時に」「必要な方へ」を意識し、園からの情報発信を心がけていく必要性があり、園としても次年度以降はさらに毎月の保護者会定例会等を通じての情報発信、共有の機会を大切にしていきたいと考えます。

(1) 自立訓練(生活訓練)事業

事業全体総括

地域で働き、暮らす上で土台となる「良い生活習慣の獲得」を目指し、今年度はグループホームを活用した生活訓練を積極的に取り入れ、「自分の事は自分で行う」「共同生活の中でまわりに気を遣う事」「将来を考える」等、まさに「地域で働き、暮らす」の実践的な取り組みを行なうことができました。

4月に受け入れた新規利用者7名の大半は特別支援学級卒(中学生)が占めました。自立訓練事業全体の平均年齢も下がり、15歳～17歳の方が中心の若さあふれる事業となりました。

今年度も訓練の進捗に合わせて、年度途中でステップアップするケースがある一方、3年目の利用延長申請を行い、ポイントを絞った支援も実施しました。新規利用者の若年化に伴い、就職年齢も低年齢化しており、内面の幼さや経験値の低さから近年の実例として、社会に出て企業で働く上での様々な面での耐性も懸念されており、自立訓練でしかできない取り組みや職員との近い距離感を必要とするケースもあり、就労移行支援事業へのステップアップの判断は慎重を要しています。(年度内で13名が移行事業へ)

今後も自立訓練事業では本格的な職業訓練の前段での様々な体験や経験が若い年代の利用者のこの先の大きな財産となると信じ、個々の特性や成長に合わせた多様な取り組みを提供していきます。

生活支援について (一部)

取り組み項目	具体的内容
挨拶	「いつでも」「どこでも」「だれにでも」を基本に時と場所を選んだ挨拶の言葉や声量の使い分けの勉強や模擬練習をし、実際の場面を通して職員が評価を返しました。
身だしなみ	頭髪や服装、ハンカチの所持、汗処理等の他、性別ごとに男性：髭、爪、歯磨き、女性：生理処理、無駄毛処理、歯磨き等を日々取り組みました。
ロッカーの使い方 (整理整頓)	ロッカーの整理の仕方を支援しました。また、ハンガーを使用しての服のしまい方等を伝えていき、ご本人の了解の下、定期的な確認もしました。
鞆の整理 (持ち物管理)	鞆の整理の仕方を勉強しました。洋服の畳み方、必要の無い物を処分するタイミングを伝えていき、ご本人の了解の下、定期的に持ち物確認を行いました。
集中訓練	一分間、目を瞑り、体を動かさず制止します。体を動かさない事に集中する事で心を落ち着かせ、気持ちを仕事モードに切り替えられる事を目的とし取り組みました。
雑巾絞り	職員がしっかりと絞れているかをチェックします。最後までやり遂げる力、指の筋力をつけ、仕事の幅を広げられる事を目的とし取り組みました。
表現の練習	嬉しい時、悲しい時、困っている時の表現を訓練し、言葉と表情を合わせていきます。感情を表現できる事で言葉に重みが持てることを目的とし取り組みました。
健康管理・ 体力トレーニング	手洗い・うがいの徹底やストレッチ・整理体操など、毎日元気に通う為の健康管理と、ウォーキングやランニング、筋力トレーニング等の体力作りを行いました。
食事のマナー	職員と昼食をとり、個々との関係性を強めるほか、食事の姿勢やコミュニケーション、マナー等を伝えました。
唱和	一人が号令役になり決まった挨拶を全体で息を合わせて発声します。挨拶の種類を覚える、大きな声を出せる様にする、集団と協調する事を目的とし取り組みました。
待ち合わせの仕方 (余暇のスキルアップ)	休日等に出掛ける際の待ち合わせの仕方やルールの確認等必要な事を伝え、実際の取り組みも行いました。(相手の連絡先、集合場所・時間、目的、帰宅時間の確認)
担当の仕事(係)	作業以外の仕事(傘たて整理、軍手洗濯、共有流し台の清掃等)を個人の役割に任せ、責任感と達成感を得る事を目的とし取り組みました。

作業支援について

主にワイン用の紙袋加工作業と卵パック容器のシール貼り、今年度からスタートした給湯器解体の3種類の作業を中心に、仕事に向かう姿勢や他者と協力して取り組む事、職場で必要となるルール・マナー等「働く」ことを通して学ぶ機会を設けてきました。また、今年度も緑地管理等の新規作業を積極的に受け企業や仕事の厳しさを学ぶため、繁忙期には残業もしながら、年間を通して幅広く安定的な仕事を確保する事が出来ました。

また、例年行ってきた「力試し」となる近隣企業での製袋作業の他にも、新たな緑地管理作業の受託など、施設の外で働く場が大きく広がりました。園内では気づかなかった利用者の長所や課題を発見する機会となったと共に、より一層働く事への意欲を高める取り組みとなりました。

その他の取り組み

近年企業が門戸を広げ、特別支援学校を卒業後に多くの方が就職をする時代となりました。しかし入口は広がっても、求められる力やハードルが低くなったわけではないため、十分に準備性が整っていない場合、早期の離職につながるケースも増えてきています。

離職の背景には、毎日休まず通う事や働く上での心構え、周囲との人間関係、家庭のバックアップ体制、生活習慣の乱れなど様々な問題があると考えられます。

そこで、自立訓練事業では、以下の項目について特に力を入れて取り組みを行なってきました。

・家庭との連携の強化

保護者懇談会（年2回）、三者面談（年4回）の実施や日々の連絡帳でのやり取り、電話連絡、毎月の保護者会での情報発信等を含め、密な情報交換の機会を持つてきました。家庭との連携は支援の根幹を支える重要な要素のため、日々の支援に関する疑問に対して一つひとつ丁寧に対応してきました。

また、家庭での過ごし方や日々の生活の困り事などについて一緒に考え、解決することを通して、困難に直面した時に、家庭がしっかりと本人を支える存在となれるよう働きかけを行なってきました。

・他事業との連携

日々の支援において、法人内の就労移行支援事業や就業・生活支援センターとの連携を通して、企業での就業生活や地域での暮らしにおいて重要な事柄、よくあるトラブルなどの情報をプログラムに反映し、積極的にカリキュラムへ取り入れてきました。

また、グループホームについては積極的な体験利用を推し進め、生活スキルの獲得と利用者の精神的な自立を目指して支援を行いました（のべ利用14名129日）。昼夜一体となった支援によって自分の身の回りのことを自分で行なう習慣や、日中活動の中でも多くの場面で良い効果が現れてきました。

・就職に向けたイメージ作り

今年度より、自立訓練事業に所属している段階から就職への意識強化や意欲向上のためのプログラムを実施してきました。将来の生活をイメージする事や「働く」ことの意味を考える勉強会の開催、自立訓練2年目の利用者を対象にした企業見学会の実施など、数年先の目標に向けて自立訓練事業の段階から準備をしていく事となります。早い段階から就職を意識していく事が、日々の取り組みにも良い影響を及ぼしてきています。

(2) 就労移行支援事業

事業全体総括

別館班を本体として、IKEA班とテンポス班の施設外就労班を合わせた3班体制で、就職に必要な知識、技能の習得を目指した職業準備訓練や、就労アセスメントを基にした求職活動支援を行いました。

平成28年度の利用者数については、延べ45名の方が当事業を利用されました。その内20名が新規利用者で、自立訓練事業からの事業変更者9名、再就職支援希望者（有職歴者）5名、就労アセスメントを目的とした短期利用者6名となります。1日の平均利用者数は33名で定員数を下回ることなく、充足率は安定していたと言えます。

職場実習や面接等の求職活動の実績は前年度とほぼ同様でしたが、内定後に辞退された方や、選考の結果不採用となるケースが増え就職者数は8名という結果になり前年度の実績は下回りました。

作業班① 別館班（京葉測量株内）

作業支援について

メーカーのキャンペーングッズの分別、食品パッケージのラベル貼りや箱折りなどの作業を通して、自主性や責任感を習得出来ているか、都度確認をしながら作業支援を行ないました。また、他者との協力姿勢など、仕事におけるコミュニケーションについても、振り返りをする機会を設けました。

利用者自身が主体的に行動出来る環境設定を心がけ、指示系統や伝え方についても、企業での就業を想定した実践的な訓練とアセスメントを実施しました。

年度途中より、メーカーからのキャンペーン品の入荷量が落ち始め、後半からは売上だけでなく利用者への作業提供にも大きく影響（他班との作業調整、生活実習を多く取り入れる等）がありました。作業提供については、次年度に向けて早急な検討、見直しの必要性を感じます。

生活支援について

昨年度に引き続き、「身だしなみ」「挨拶」「言葉遣い」「仕事のルール」と4つのテーマを毎月設定し、利用者自身で目標設定と振り返りを行なってもらう事で、意識の向上を図りました。また、月毎に、面接時のマナー・身だしなみや求人票の見方、金銭管理やトラブルへの対処といった、就職へ向けた知識を学ぶ勉強会やグループワークを行ないました。

(生活実習実績)

4月	新年度オリエンテーション	8月	金銭管理について（応用編）	12月	就職面接のポイントについて
5月	就職へ向けての心がまえ	9月	金銭トラブルとその対処について	1月	グループ毎の模擬面接練習
6月	身だしなみ	10月	面接時の身だしなみについて	2月	対人マナーについて
7月	金銭管理について（基礎編）	11月	履歴書の書き方について	3月	求人票の見方について

その他の取り組み

- ・5月と10月に保護者懇談会を開催。（工場見学、事業内容説明、就業・生活支援センターの説明等）
- ・就職に向けたオリエンテーション（就職に向けた心構え、卒園生の仕事を紹介）
- ・履歴書記入講座（ハローワーク職員講師）
- ・面接練習、スーツの着方講座
- ・企業見学会開催（利用1年目の利用者を対象とし卒園生が勤務している企業を見学※計3社）
- ・就職を祝う会

作業班② イケア班 (IKEA TOKYO-BAY 店内)

作業支援について

イケア内での家具の組み立てやリサイクル資材の分別作業、ピッキング業務、値札付け、商品再梱包作業等、実際の業務を経験する事で仕事の責任感・協調性を学び、社員との協働や共有の場を通して、職場でのルール・マナーも学ぶ事ができました。

生活支援について

毎月末には作業と生活について「振り返り」を行うことで、生活基盤の強化や精神的な安定が図れました。生活実習は別館班と合同で、就職に必要な履歴書の書き方、求人票の見方、面接時の身だしなみ等の講座を設けました、また、怪我の予防につながる体の柔軟性の獲得とリラクゼーションを目標に「ストレッチ」を行ないました。

(生活実習実績)

4月	ルール・マナーの確認	8月	お金の使い方について(応用編)	12月	ルール・マナーの振り返り
5月	就職に向けての心がまえ	9月	金銭トラブルとその対処について	1月	ストレッチ
6月	身だしなみ	10月	面接時の身だしなみについて	2月	求人票の見方
7月	お金の使い方について(基礎編)	11月	履歴書の書き方について	3月	ルール・マナーの振り返り

その他の取り組み

- ・例年行なっている、IKEA リカバリーの責任者と利用者とのミーティングは不定期でしたが、行なうことができ、普段の取り組みがどのように IKEA の業務に関連しているかを学ぶ機会となりました。
- ・当年度は IKEA での安全保安研修及び避難訓練にはその機会がなく、参加ができませんでした。

作業班③ テンポス班 (テンポスバスターズ幕張店)

一か月の内、5日間を作業日として、引率職員1名と、利用者5名(メンバーは月ごとに選出)のグループで、リサイクル品である調理器具の洗浄や店頭での品出し等の業務を行ないました。

回収されたリサイクル品の洗浄から店頭の品出しまでの一連の販売工程に携わることで、作業効率や品質等に責任感を感じながら仕事をする事ができました。

また、店頭に出てお客様の前で業務を行うことで、挨拶や言葉遣い等の接客マナーについて実践的に経験できる貴重な機会となりました。

就労移行支援事業における企業就労支援実績

様々な作業体験を通じたアセスメント情報を基に、求職活動期の職業相談から採用面接、実習等の支援を行ないました。実績件数については下記の通りです。

今年度の特筆すべき点として、企業の障害者雇用に対する考え方が多様化してきている事を大きく感じました。長期的視点をもって、採用までの時間をかけ、慎重に判断する企業がある一方、採用までのプロセスを簡易化し、面接のみで採用に至る企業等、一人の方を就職に結びつけるために園と家庭には柔軟且つ、スピーディーな対応が求められました。

特に就職に向けての動きでは、家庭との連携、協力は欠かせません。採用までのプロセスを簡易的に進める企業においては、履歴書の提出、面接日の設定、実習日の設定等、企業側に合わせた対応が必要です。

貴重なチャンスを生かすためにも、日頃からの園と家庭の情報の共有。そして家庭における①心の準備（就職するタイミングや就職先、待遇等のイメージ）と②物理的準備（履歴書やスーツ等）、そして③スキルの準備（公共交通機関の利用、昼食を購入する経験）等、次年度はより園と家庭が連携し、出来る限り準備を整えた上で就職活動に臨んでいきたいと考えています。

職場実習実績

企業見学件数	28社（のべ69人）
実習受入先企業数	23社
実習実施件数	55件（のべ562日）

就職者実績

	年齢	性別	居住地	障害程度	就職先（企業名）	業務内容	利用期間
1	28	男	船橋	知的	（株）武蔵野	廃棄物回収	20ヶ月
2	22	男	浦安	知的	（株）リクルートスタッフィングクラブツ	紙すき作業	13ヶ月
3	35	男	船橋	知的	ポリマープラス（株）	容器加工	22ヶ月
4	41	男	習志野	知的	（株）ミスターマックス	ハンガーかけ、品出し等	20ヶ月
5	33	女	習志野	知的	（株）IHIインフラシステム	清掃	19ヶ月
6	20	女	船橋	知的	シャネル（株）	軽作業	17ヶ月
7	18	男	船橋	知的	オーケーストア（株）	青果袋詰	22ヶ月
8	25	男	八千代	知的	（株）千葉ビジネスサポート	清掃	23ヶ月

就職者データ

就職者数	年間就職率	性別	年齢範囲	平均年齢	平均利用期間
8名	26.6%	男：6名 女：2名	18歳～41歳	27歳	19.5ヶ月

※年間就職率＝就職者数/定員数（30名）×100

職場定着支援実績（就業・生活支援センターと連携）

就職後の長期的な定着支援を実施するため、就労移行支援事業の在籍中に就業・生活支援センターに登録します。

今年度は1名の方が1ヶ月で早期離職となりました。センター担当者とのケース共有と職場訪問の具体的なスケジューリング、各職員の定着支援スキルの向上等、平成30年度の定着支援事業も見据えた定着支援の体制づくりは今後の課題といえます。

対象年度	就職者数	定着者数 (チャレンジ雇用後の転職者含)	定着率
平成28年度	8名	7名	87%
平成27年度	19名	19名	100%
平成26年度	16名	15名	93%

※定着率＝就職定着者/就職者数×100（各年度で算出）

ふれあい会（就職者本人会）活動実績

ふれあい会とは、あかね園から就職した方を対象とした本人会です。

企業で働く本人達にとって、定期的に仲間や職員と交流を図る事や困ったことがある場合に気軽に相談ができる機会は非常に大切であり、園としてもこの会を全面的にバックアップし、様々な余暇活動や勉強会等の活動を支援しています。平成28年度の会員総数は121名となりました。

日付	内容	場所	参加人数
5月2日	全体会	あかね園	69名
7月8日	懇親会	サッポロビール 千葉ビール園	83名
8月11日	あかね園 納涼祭	あかね園	76名
9月2日	夏季グループ外出（金）	カラオケアーサー・ラウンド1	47名
9月3日	夏季グループ外出（土）	南房総観光	41名
10月2日	あかね園 バザー	あかね園	自由参加
1月20日	新年会	ホテルグリーンタワー幕張	84名
3月3日	冬季グループ外出（金）	カラオケアーサー・ラウンド1	42名
3月4日	冬季グループ外出（土）	花やしき 浅草観光	40名

(3) 就労継続支援B型事業

事業全体総括

「本場班」、「東京アート班」、「市川環境班」の3班体制で、はたらくことを通して安定した生活を継続すること、利用者個々の適性或タイミングに合わせ、一般就労につなげることを目指して支援を行いました。

新年度、就労移行事業からの契約変更者1名を加えた31名でスタートし、年度途中の退所者が4名（就労者2名、その他2名）でした。2名の就労者の在園期間は7年～18年と、しっかり時間をかけて就職先へつなぐ本事業の役割が形となりました。一方で、最高齢50歳、6割が40代となり、加齢に伴う心身の変化が目立つ利用者が増える中、将来を見据え、準備を進めてきた方を入所施設につなぐことができました。

本事業にとって「本人、家族の高齢化」の課題は“待ったなし”となりました。今後も心身の小さな変化に注意を払い、個々に合わせたはたらく場を整えると共に、将来を見据えた支援について、利用者自身やご家族と共に考えていきたいと思っております。

作業班① 本場班（あかね園本場1階 作業場）

作業支援について

複数の作業種の組み合わせや、少人数での作業環境を設定し、利用者個々の様々な状況の変化に寄り添い、活動を行なってきました。今年度の夏頃、長年取り組んできたお菓子の箱折り作業が終了してしまった事も影響して、昨年に比べると作業売り上げはややマイナスとなってしまいました。しかし、その一方では段ボール箱の糊付け作業を中心に、防災用備蓄品のセット、箱折り作業など数社の組み合わせで、昨年よりも作業ラインの安定を図る事が出来ました。今年度は新しく習志野市民農園での農作業を開始しました。土作りから行ない、数種類の野菜も収穫する事ができました。また、隣接する企業エフピコダックス(株)から食品トレーのリサイクル作業を受注し、9月～12月の3か月間、施設外就労として作業を行ないました。

生活支援について

長く、健康に、働き続ける事を目的として、今年度も健康面での取り組みに注力してきました。昨年度に引き続き、毎朝30分の踏み台昇降運動とマットストレッチ、週に1回の歯磨きチェックと体重測定を行いました。今年度は、各専門機関との連携を図り、既存のプログラムの見直し、改良を図る事が出来ました。「踏み台昇降、マットストレッチ」は、理学療法士・作業療法士健康プログラムを機にメニューを見直し、「歯磨きチェック」では、ビーバー号の巡回指導で受けたアドバイスを元に個別の支援ポイントを整理しました。毎月行なっている生活実習では、リラックス効果のあったヨガの取り組みを軸に、時節ごとのイベントに合わせた調理実習、パークゴルフ等を企画し、リフレッシュの機会となりました。

(生活実習実績)

4月	調理実習（花見）	8月	ヨガ	12月	ヨガ
5月	ボウリング・カラオケ	9月	ホテル外食・資生堂ビューティ講座 理学療法士健康プログラム	1月	調理実習（新年会）
6月	ヨガ	10月	ヨガ	2月	ヨガ 理学療法士 健康プログラム
7月	調理実習（七夕）	11月	パークゴルフ	3月	一日外出（東京ドイツ村）

その他の取り組み

- ・習志野市社会福祉協議会秋津支部が主催しているサロン秋津にボランティア活動に行きました。
- ・東京アート班メンバーの本体戻り日に合わせ、東京アート班の作業のサポートに行きました。
- ・緑地管理作業に参加しました。（市から委託を受けている茜浜緑地、ココ・コーラ）
- ・太巻き講座に参加しました。

作業班② 市川環境班（株）市川環境エンジニアリング 習志野リサイクルセンター内

作業支援について

近隣に位置する企業の中で、容器包装リサイクル作業に従事し、社会の中で働く事を実感しながら、出来るだけ高い工賃を得ることを目指した班です。

基本的なルール・マナーを守り、作業に向き合う姿勢を身につけ、企業から求められる安全面や作業精度の基準を達成する事を念頭に取り組んできました。企業で実施されている「危険予知活動」に基づき、日々の朝礼等にて安全への意識強化を図りました。作業場での足元確認の徹底や、危険箇所の意識強化に繋がり、大きな怪我もなく過ごす事が出来ました。また、度々変更される選別基準に柔軟に対応しながら、日々手順の確認を行なう事で、自然と作業に向き合う姿勢が作られ、品質の安定を図ることも出来ました。

生活支援について

月に1度の生活実習では、運動の取り組みとしてスポーツジム、衛生面の取り組みとして銭湯の利用を中心に企画しました。スポーツジムでは、トレーニングマシンの扱いが利用者自身で出来るようになる等、繰り返し取り組んできた成果が見られました。また、今年度は新たな取り組みとして家庭でも実践できるメニューで調理実習を2回（ラーメン、パスタ）行ないました。

普段と異なる環境の中、仲間同士で楽しく過ごす事で心身のリラックスを図り、仕事に向かう英気を養う事に繋がりました。

(生活実習実績)

4月	なし	8月	プールの取り組み	12月	調理実習
5月	なし（避難訓練参加）	9月	調理実習	1月	運動の取り組み （スポーツジム利用・外食）
6月	運動の取り組み （スポーツジム利用・外食）	10月	運動の取り組み （スポーツジム利用・外食）	2月	衛生面の取り組み（銭湯の利用）
7月	衛生面の取り組み （銭湯の利用）	11月	衛生面の取り組み （銭湯の利用）	3月	一日外出（東京ドイツ村）

その他の取り組み

- ・事業所内の職場安全衛生委員会に参加し、利用者と共に安全面や選別基準に関する講習を受けました。
- ・トイレ掃除や配膳、洗濯等の役割（係）を設け、責任感を養うと共に、周囲との協調を図りました。
- ・ひと月の振り返りの時間を設け、作業や生活面を見つめ直す時間を設けました。

作業班③ 東京アート班（東京アート株 関東工場内）

作業支援について

主に時間をかけて就職を目指す方や、再就職にチャレンジする方、企業の中でしっかりと働く事を希望する方を対象に、企業で必要とされるルール・マナーを学び、仲間と協力しながら働くグループです。

今年度は「製袋作業」、「資源ごみ回収・分別作業」の2本の仕事を中心に、必要に応じて「所内清掃」に取り組みました。下半期から年末にかけては非常に忙しい状況が続き、新たな仕事を任されることが何度ありました。企業から良い評価を受け、信頼を頂くことで、利用者のやる気向上にもつながりました。

また、感染症が流行る冬期にはマスクの着用・手洗いうがいの徹底をし、健康管理に努めました。全体的には大きく体調を崩さず、ほとんどの方が元気に通って来る事が出来ました。

生活支援について

今年度は、アート班独自の生活実習に加え、継続本場班・就労移行班の生活実習に積極的に参加しました。「健康予防」、「就職に向けて」の取り組み等、個々の目的に応じた活動に参加する事で、より充実したプログラムの提供が可能となりました。また、生活実習後には、毎回「挨拶の練習」を取り入れ、事務所への挨拶の仕方等、場面に応じた適切な挨拶の習慣を身に付けることを目指しました。

日々の取り組みでは、毎朝の身だしなみチェックと体調確認を実施し、意識強化に努めました。個別の取り組みでは、持ち物管理、体重管理、公共のルールマナー等、職員との確認を繰り返し行ないました。

(生活実習実績)

4月	新年度オリエンテーション	8月	整理整頓・ヨガ	12月	ストレッチの強化・ヨガ
5月	対人マナー・就職に向けて	9月	スポーツジム 理学療法士健康プログラム 資生堂身だしなみビューティー講座	1月	新年の目標確認
6月	身だしなみ・ヨガ	10月	ヨガ・面接時の身だしなみ	2月	スポーツジム・ヨガ 理学療法士健康プログラム
7月	熱中症対策	11月	防災について	3月	一日外出

その他の取り組み

- ・月2日のあかね園戻り日では、生活実習の他に、ひと月の振り返りや個人面談を行なう機会を設けました。定期的に成果を返し、課題確認をする事で本人が意識を持ち、日々過ごせるよう支援をしました。
- ・本場班の作業や習志野市から委託されている緑地管理作業にも従事しました。普段と異なる環境での取り組みは本人たちにとって良い刺激になりました。

就労継続支援 B 型事業における企業就労支援実績

今年度も就労移行支援事業から事業変更した方や再就職を目指す方等に対して施設外就労を利用しながら障害者就業生活支援センターと連携をし、求人情報の提供や企業見学、面接、企業実習の同行を個別状況に合わせて行ないました。結果、長期に亘りあかね園を利用されていた方2名の就職が決まりました。

職場実習実績

企業見学件数	8件 (のべ8人)
実習受入先企業数	5社
実習実施件数	6件 (のべ54日)

就職者実績

	年齢	性別	居住地	障害程度	就職先 (企業名)	業務内容	利用期間
1	40	男	船橋	B-1	㈱リクルートスタッフینگクラブツ	紙漉き	7年6ヶ月
2	27	男	船橋	㊦-2	㈱市川環境エンジニアリング	容器包装リサイクル	18年3ヶ月

(4) 共同生活援助事業 (あかねホーム幕張・幕張西・鷺沼・実靱・幕張西・幕張西サテライト・鷺沼サテライト・幕張第二)

事業全体総括

訓練型、通過型、多目的型と各ホームのコンセプトに基づき、生活スキル向上と就業の安定を目指し取り組みました。特に今年度はホーム単位での保護者懇談会も実施し、ホームに特化したステップアップのあり方や保護者との連携をより強化することが出来ました。

一方で、入居利用の方に留まらず、それぞれの目的による体験や緊急時の一時利用受入を積極的に行ない、より多くの方々の要望に応じていくことも出来ました。

各ホームのコンセプト、そして、ステップアップに向けた動きも定着しつつある中、今年1月末にてあかねホーム実靱が閉所（消防法・交通事情が理由）、そして、2月より新たにあかねホーム幕張第二が開所することとなりました。この2つの動きを踏まえて、ホーム全体の利用者個々の目的に合わせ一部見直し、大規模な入居者異動、そして、あかねホーム新体制の基盤作りの年となりました。

今後は新体制の中、より明確化した各ホームのコンセプトをしっかりと機能させていくとともに、入居者の高齢化や地域移行（単独・家庭）を見据えた支援の充実が大きな課題となります。

あかねホーム利用実績 ※…6月より鷺沼ホームは、共同生活援助事業（体験利用）による受入となった。

ホーム(定員)	利用内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実靱 (5名)	入居	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5					
	体験・一時(男)	1	1	6	2	2	1	3	2	2						
鷺沼 (6名)	入居	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5			
	体験・一時(男・女)	2	2	2	1	3	1	1	1	3	2	2	1	2	1	1
鷺沼サテライト (1名)	入居	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
幕張 (6名)	入居	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6			
幕張西 (5名)	入居	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5			
幕張西サテライト (1名)	入居	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
幕張第二 (6名)	入居											6	6			
	一時(女)											1				
体験・一時利用者延べ人数		46名	5	4	8	3	3	4	5	5	5	0	3	1		

その他の取り組み

ホームの行事、余暇については、入居者の希望と必要性をもとに取り組みました。これらを通じて、仲間同士での外出等（余暇・ふれあい会）に幅の広がりが見られます。また、ホーム毎の生活実習（スキルを高める）での実践を通じて、家庭での取り組みにも反映された声が聞かれるようになりました。ホームと家庭での両立、そして定着を目指し、今後も継続していく必要があります。

年間活動実績（行事・余暇・生活実習・その他）

月	取り組み内容	月	取り組み内容
4月	全体】オリエンテーション・避難訓練	10月	全体】避難訓練
6月	カラオケ・ボーリング・バーベキュー	11月	各ホーム保護者懇談会
7月	外食・調理実習	12月	忘年会
8月	全体】掃除の取り組み	1月	幕張】成人を祝う会
9月		3月	一日外出・ホーム保護者懇談会

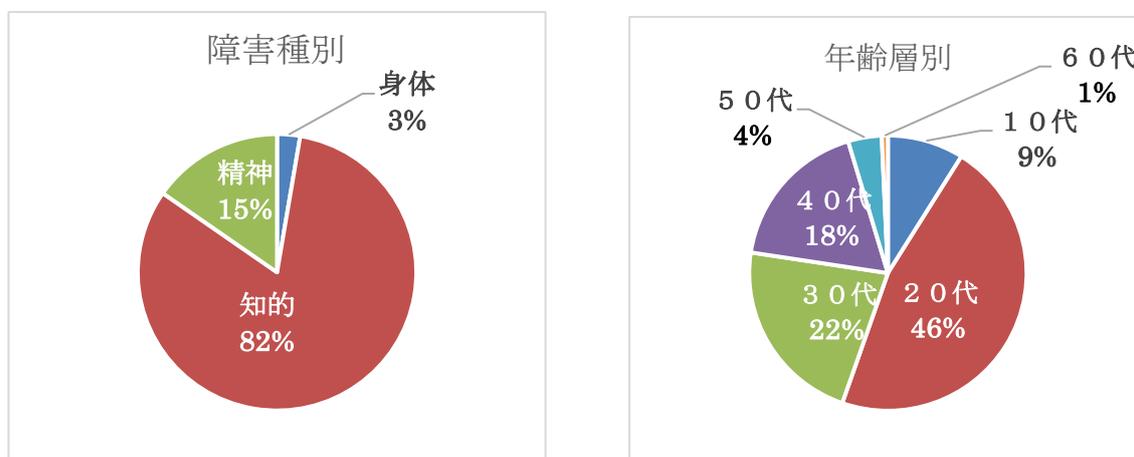
(5) 障害者就業・生活支援センター事業

今年度のセンターは、対象者数の増加と共に様々なケース事例へ対応することで、支援の幅が広がり、高度化してきました。しかし、より高い専門性が求められるケースもあり、引き続き支援力の向上に努めていく必要性があります。一方、定着支援での生活面に關わるケースのウエイトが大きくなっていること、そして、それにより登録者数や支援ニーズの増加への対応策が必要です。

また、ハローワークの相談件数や就職者数が昨年度に比べ減少したことについては、様々な相談機関や支援機関が増え、相談や支援等、中ポツ以外の選択肢が多くなったことも一因として考えられますが、引き続き他にも要因の分析を行いながら、センターの支援体制や方法の見直しを行っていきたいと思います。

1. 支援の状況

平成 28 年度末時点での登録者数は 562 名、内新規登録者は 76 名でした。(対前年比 86%) 在職者は 457 名、求職者は 105 名です。さらに、以下に障害種別と年齢層別の登録者の内訳を示します。



① 相談 【新規相談件数 93 件 (対前年比 103%)】

内訳は、あかね園 58 件、サンロード 28 件、HW6 件、その他 1 件です。サンロードは 6 年目、HW は 5 年目となりますが、件数としては昨年度とほぼ同様でした。しかし、サンロード相談に關しては年簡で 6 件と非常に少なく、次年度の継続開催には検討が必要です。

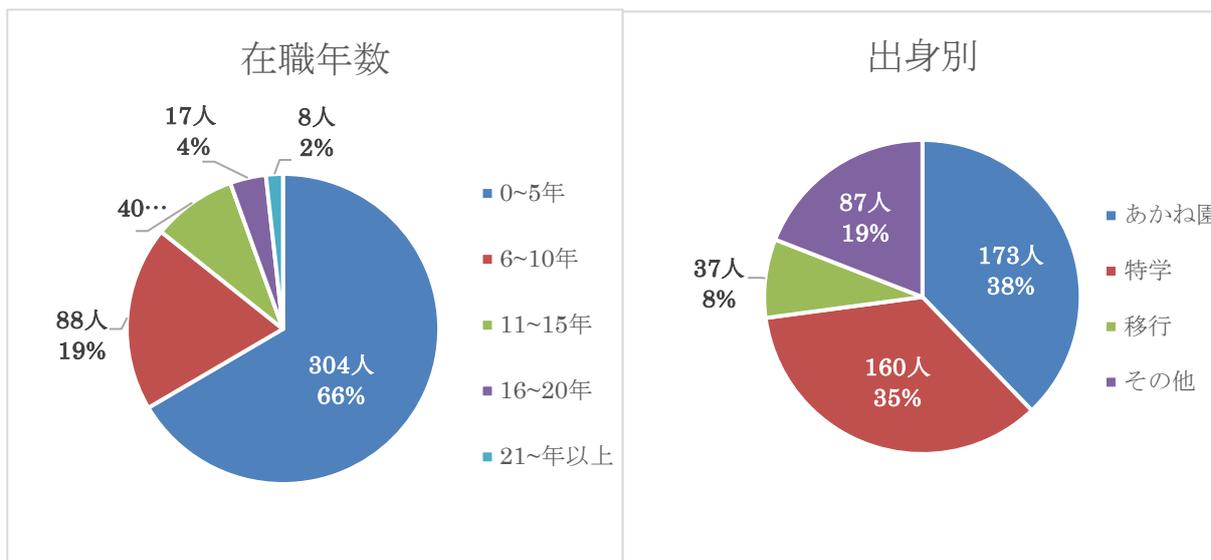
② 就労支援 【就職件数 27 件 (対前年比 61%)、職場実習件数 80 件 (対前年比 125%)】

就職者の内訳は、あかね園の就労移行支援事業からが 8 件、外部登録者が 16 件でした。昨年度に比べ大幅に就職者が減ったのは、就労支援への取り組みに比べ、定着支援に多くの時間を割かざるを得ず、結果的に就労件数の伸び悩みに繋がったのではないかと思います。

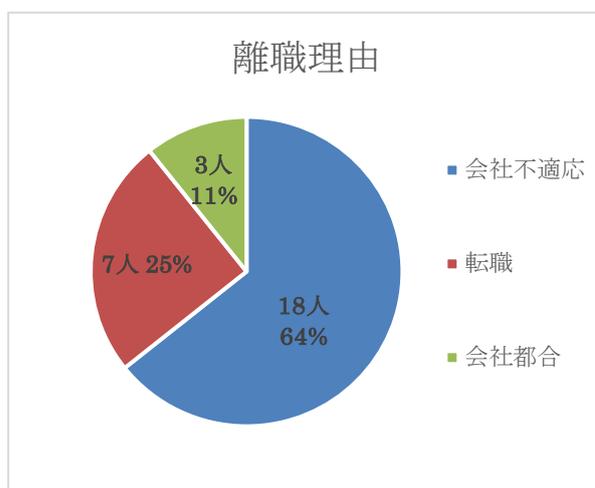
③ 定着支援 【平成 27 年度の就職者の定着率：6 か月経過時点 95.5%、1 年経過時点 91%】

- ・あかね園出身者の定着率は、6 か月経過後で 100%、1 年経過後でも 100%でした。
- ・一方、外部登録者の定着率は 6 か月経過後で 92%、1 年経過後では 84%でした。
- ・就労者 457 名の状況は次の通りです。在職年数の最長は 36 年、次いで 29 年目の登録者がおり、8 割以上が 10 年未満でした。出身別では自法人外の就労者が半数以上を占めています。
- ・昨年度に引き続き、生活面（金銭や携帯電話によるトラブル、異性関係の問題）の相談が目立ちました。
- ・特に精神障害や発達障害の方々に対する継続的相談支援件数が増加しました。相談の内容としては生活状況の不安定さからくる不安感等の訴えが多く、電話、面談、訪問等で対応しました。

- ・働く本人や保護者の高齢化について、将来の生活に関する相談は昨年度に引き続き多く寄せられました。家庭を離れての生活の場として、グループホームの体験利用や入居等を勧める支援ケースも増え、一層GH支援ワーカーや地域の各GHとの連携ニーズは高まりそうです。



- ・離職件数は28件でした。内訳は、あかね園出身者が4名（14%）、外部登録者が24名（85%）でした。離職した外部登録者の内3名（就労移行1名、継続B型1名、自立訓練1名）があかね園の利用に繋がっています。
- ・右図は離職理由の内訳です。「会社不適応」に含まれる具体的な離職理由としては、職場の人間関係などからくるストレスだったり、もともと就業意欲の低さ、就業態度の悪さ等が挙げられます。そして、ほとんどの背景には生活全般の不安定さが見られました。



2. センター受託事業

① 企業支援員事業 【新規訪問24件、実習支援13件、就職支援7件、継続支援141件】

- ・千葉県が独自に行っている委託事業で、県内各支援センターに1名が配置され、就労支援員と連携して新規企業の開拓や職場実習や就労へ向けての支援を行いました。

② 障害者就労促進チャレンジ事業 【短期職場実習12件、企業見学会1回】

- ・県産業人材課より毎年連絡協議会が受託し、各ナカボツが圏域毎で取り組んでいる事業です。
- ・短期職場実習では、就業経験の少なさや障害特性に配慮して2名の方が2回に分けて実習を行い、最終的に12名中6名が就労に繋がりました。
- ・企業見学会は12月12日に(株)パルミートで行ない、3社の参加がありました。

③ 精神障害者等向け実践能力習得訓練コースの委託先機関開拓事業 【実習1件】

- ・千葉県障害者高等技術専門校より連絡協議会として受託している事業で、各圏域の中ボツセンターで取り組みました。企業開拓、実習調整、実習支援に、企業支援員が中心となって関わり、1名の方がURO電子工業(株)で9月6日から10月28日まで実習を行いました。

<センター主催の会議・取組み及び外部会議等への参加>

<p>地域意見交換会</p>	<p>年 4 回開催。今年度は「働くを支える生活支援」と題して、医療やグループホームからの情報発信を行い、企業や学校、支援機関や行政、保護者等様々な立場の方々にご参加頂き、活発な意見交換を行いました。</p>
<p>在職者交流会</p>	<p>在職中の登録者を対象に偶数月開催（年 6 回）しました。他己紹介やゲームによる仲間どうしの交流や年末には年賀状作成をテーマに設定し、最終回は KDDI から講師を招いて「携帯電話の使い方」に関する勉強会を開催しました。</p>
<p>第 1 回支援機関向け勉強会</p>	<p>初の試みとして開催しました。普段からセンターと実際に連携している就労系事業所（移行・B 型）に参加して頂き、あかね園の見学やセンターの説明等を行った後、それぞれの事業所の自己紹介と意見交換を行いました。今後継続的にを行い、地域の支援機関との連携を深めていきたいと考えます。</p>
<p>就労者親の会</p>	<p>定例会（年 4 回）、研修会（年 1 回）に参加しました。登録者の就業状況、長く働くために果たすべき家庭の役割、高齢化に向けて等、親の会の役員会でテーマを調整し実施していきます。</p>
<p>移行支援会議</p>	<p>9 月～3 月に近隣特別支援学校 7 校（流山、八千代、我孫子、市川大野、つくし、槇の実、香取特支）からの依頼で各会議に参加しました。学校卒業後定着支援のためのセンター登録を前提としたケース状況の引き継ぎを行うための会議の位置づけで全校合わせて 32 名の登録希望者と面接を実施しました。</p>
<p>千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会</p>	<p>県内 16 か所の中ポツセンターが集まり運営をしている協議会です。総会、定例会（隔月）、関係機関連絡調整会議（年 2 回）、研修会等に参加しました。また障害者職業センターとの意見交換会等、外部機関との連携・意見交換の場にも参加しました。</p>
<p>障害者就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議</p>	<p>中ポツの南関東ブロックは、東京、神奈川、山梨、長野、千葉の一都 4 県で構成されていますが、今年度は千葉労働局が主催して、千葉の連絡協議会が協力をする形で千葉で開催されました。本省や局からの情報発信や他県の中ポツ同志の情報交換を行う。</p>
<p>全国就業支援ネットワーク</p>	<p>全国フォーラム（2/5）。全国の支援センターとのネットワーク形成および、今後の就業支援に関する情報交換を行いました。</p>

(6) 日中一時支援事業及び体験利用の受け入れ

日中活動の場を提供する目的で、1日から1カ月の範囲で希望者に対してサービスを提供しました。学校等からは進路選択に向けた評価や仕事の体験を目的とした利用希望が上がりました。

市町村	件数	内 訳				
		在宅者	就労者	特別支援学級	特別支援学校	その他
千葉市	7	1		1	5	
浦安市	1				1	
市川市						
松戸市	4				4	
四街道	2				2	
鎌ヶ谷市	3	1			2	
習志野市	10	3		3	4	
柏市	2				2	
船橋市	32	3	9	15	5	
佐倉市	1			1		
野田市						
八千代市	6	5			1	
東京都						
1都12市	68	13	9	20	26	

※件数には私的契約も含まれます。

(7) 障害者委託訓練事業

職業能力校から委託され、就職に必要な基礎的な知識や技能の習得を目的とし、3カ月を標準として、多様な職業訓練を実施するものです。

今年度は2名の方に対して訓練を行い、期間中での就職には至りませんでした。引き続き、就職を目指して就労移行支援事業や就労継続支援B型事業の利用へと繋いでいます。

市町村	性別	種別	期間	訓練結果
鎌ヶ谷市	男	知的	6/1～8/31	就職には至らず
船橋市	男	知的	12/12～3/10	就職には至らず

IV. 業務報告

(1) 施設管理

①環境整備（ヒヤリハット・事故報告）

今年度は事故件数が12件と昨年に比べ若干減少しましたが、例年に比べると高い数字となっています。より高い危機意識を持ち、日々の業務に取り組むように全体へ発信を行い、ひとりひとりの意識を高めました。

ヒヤリハットメモについては、今年度も情報伝達に関する不注意が最も多く見られ、その都度、改善のための手段を考え、職員全体に周知徹底を呼びかけました。

	怪我等	所在不明	情報伝達	送迎	個人情報	車	お金	その他	合計
事故報告書	1	0	1	0	1	3	4	2	12
ヒヤリハット	2	2	15	0	1	0	4	9	33

②防災・避難訓練

有事の際の「人命の保護」、「継続的な業務の遂行」を念頭におき、あかね園の防災計画及び災害警戒・対策体制の組織の下、日頃からの防災に向けた取組や訓練、備蓄品の確保等に努めました。

- ・年2回の避難訓練の実施【5月（地震・火災）※消防署立会・9月（火災）】
- ・9月職員研修にて「防災について」をテーマに。防災対策の各部署での話し合いを実施。
- ・職員間の連絡体制確保の為にライフサポートメールの訓練の実施
- ・保護者へ対する連絡網の大幅見直しを実施し、メール発信システムの導入と訓練を実施。

③車両・運行管理

今年度も計画に沿った点検の実施など、適正管理に努めてきました。しかしながら、使用年数が7年を超える車両が半数を占め、今後は順次計画的な車両の入れ替えを進めていく事が必要と考えられます。

また、安全運行に関する注意喚起を定期的に行ない、車両事故は例年に比べて減少しています。その一方で、職員が外部に赴く機会は年々確実に増加傾向にあります。そのため、運行者の適性見極めに関しては、一定の基準を設けた上で慎重に育成を実施してきました。

今後も車両の適正管理を確実にを行い、運行者一人ひとりが利用者の命を預かる業務に携わっているとの自覚を持ち、安全運行を実施出来るよう働きかけ続ける事が重要であると考えられます。

- ・保有車両（9台）の法定点検及び日常的な清掃、整備、修理等の実施。
⇒ 整備・調整（12件）、修理（事故修理含む6件）
- ・送迎サービスの従事者への運行練習及び運転技術の見極め
- ・自家用車通勤職員への車検証、免許証、保険の更新時の必要書類の提出喚起と取りまとめ

(2) 外部受け入れ（見学・研修・ボランティア）

① 見学、研修生受け入れ

あかね園の就労支援は長年注目されてきた経緯もあり、毎年、学校関係の保護者、生徒、同じく就労支援に携わる福祉関係者等、多数の見学、研修の受け入れを実施してきました。

今年度の特徴として、複数の学校等の保護者つながりでの見学希望や 10 代前半の若い世代の保護者からの希望が多く、時代の変化、親御さんの変化を感じさせられました。

また、これまでの見学内容としては「就職するためにはどうすれば？」といった疑問に対する見学希望が大半でしたが、「就職は焦らない」「小さいうちに何をしておけば」といった長期的視点での見学希望が増えています。

これからもあかね園が地域から選ばれるサービスになり続けるためにも、SNS の急速な普及や情報社会を意識し、発信する内容等は適宜見直して対応していきたいと考えます。

・ 見学、研修受け入れ種別

種別		件数	人数
学校関係	教師が主体	6	165
	生徒が主体	11	146
	学生の研修	1	1
	保護者のみ	4	36
福祉関係団体等		8	57
企業関係		9	9
合計		39 件	414 名

・ 見学、研修の目的

見学、研修目的	件数
あかね園の取り組み、就労支援について	3
資格取得の為	25
合計	28 件

② ボランティア受け入れ

今年度はボランティア希望の方から問い合わせが 1 件あり、1 日受け入れをしました。

また、年間を通しての定期的なボランティアに関しては昨年度に引き続き 2 名の方にお越しいただくことができました。

新規ボランティア登録については、11 名の方にご登録いただきました。うち、実際にボランティアとして参加したのは 5 名でした。

受け入れ種別	人数
作業ボランティア (週 2～3 日、月 3～4 回程度の定期的な参加)	2 名
作業ボランティア (繁忙期に参加)	0 名
保護者の手作りボランティア (週 1 日程度)	7 名
ふれあい会外出支援、生活実習	0 名
行事 (納涼祭、バザーなど)	5 名
短期の受け入れ (実習、他機関からの紹介)	0 名
合計	14 名

(3) 広報

①ホームページ

年度始めには、施設長交代による各ページの記名を一新し、併せて法人組織図や沿革についてもデータを最新版に更新しました。また、例年通りトップページのお知らせボックス（2か所）の随時更新と、あかね園の広報誌の掲載を行ないました。

- ・お知らせボックスの随時更新：職員募集、防災、バザー提供品のお願いと開催のご案内、リオパラ報告と応援の御礼、バザー御礼、年末年始の予定、友の会研修会のご案内とご報告 等
- ・広報誌のアップ：みどりの風2回、あかねの集い4回

②会報の発行

日頃よりあかね園を応援して下さる皆様、そして利用者、保護者、関係機関等に向け、以下の2種類の広報誌を発行しました。

名 称	発行者	発行月	主要テーマ
みどりの風	友の会	5、12月 (年2回)	法人設立30周年の節目として、友の会の歴史の振り返り、30年間の時代の変化についてそれぞれ特集を組みました。
あかねの集い	あかね園	5、9、12、3月 (年4回)	あかね園内外の連携をキーワードに、就業支援課、生活支援課、企業とのやり取りについて順次特集を組みました。

利用者を含む園内関係者には、いずれも発行月の下旬を目安に配布、対外的には各事業の会議や見学受入の際に積極的に配布をしました。今年度は法人の歩みを振り返ると共に、あかね園が事業横断的に就労・生活・定着支援を遂行していること、さらに企業と色々な形で繋がっていることを示すことができました。パンフレットと並び、あかね園の紹介資料として様々な場面で広報誌を活用することで、園の取り組みを外部の方々にも広く知っていただくことができました。

③ 掲示板

本場2階の廊下を中心に事業や業務ごとの掲示位置を決め、年間を通して必要な情報発信や報告を行ないました。それぞれの掲示物の作成を各事業や業務に任せることで、昨年度に比べ更新が活発化し、幅広い内容の情報を掲示することができました。

掲示場所	カテゴリー	内容
本場2階廊下 (事務所前)	全事業	あかね園の支援の流れ・職員紹介 等
本場2階廊下 (食堂前)	各種情報	園に届いたセミナーのお知らせ、苦情解決、運営規程 等
	自立訓練	新規入所利用者の紹介、生活実習 等
	就労移行	職場実習、就職を祝う会 等
	継続B型	生活実習、余暇活動 等
	共同生活	体験利用の空き状況、幕張第二ホーム新設の報告 等
	センター	在職者交流会、地域意見交換会 等
	親の活動	年間外販予定、ボランティア活動予定 等
	保健	健康診断・歯科指導の報告、ノロウイルス予防の呼びかけ 等
	防災	防災マップ、防火設備の周知 等
広報誌	みどりの風、あかねの集い	
第二作業場2階	全体	各種情報(同上)、園の広報誌 等
園内各室、GH	全体	園の広報誌を随時回覧

④ 30周年記念式典関係

平成27年度末より、式典に向けた準備を行なうべく、保護者会、就労者親の会、友の会の3つの親の会の代表者と、あかね園職員(施設長、常務、課長)で構成される「30周年記念式典準備委員会」を結成し、そこに広報担当も同席、共に準備を進めてきました。月に1回の打合せを重ね、広報担当としては議事録の他、主に記念誌の作成のサポートと、式典当日に使用する30周年を振り返る映像(DVD)の制作を行ないました。式典終了後は、委員会の名称を「あかね園・保護者活動代表委員会」とし、引き続き園と保護者の活動をバックアップすることとなっています。

⑤ 備品管理

園の活動範囲が広がったこと、行事で自立・移行・継続と事業単位で動く機会が増えたことを背景に、一眼レフを1台購入して3台にしました。カメラによる写真の質のばらつきが最小限になり、また必要台数を確保することができました。併せて、カメラ備品(レンズカバー、ケース等)も準備し、安定して記録を撮れる環境が整いました。

保管場所である事務所では、管理方法の徹底と持ち出し時の約束事を決め、全体周知を図っています。

(4) 生活

①保健・衛生

本人や家族の健康に対する意識を高め、早期発見・早期対応を目的に健康診断、内科検診を実施し、適宜、様々な情報発信をしてきました。また、今年度は県が取り組んでいる事業「歯科保健巡回診療指導（ビーバー号）」が2日間に渡り実施され、歯科医師3名、歯科衛生士10名が来園し、歯の検診・ブラッシング指導・歯の健康についての講和がありました。

保健担当は、口腔内の健康管理の意識を高めるための情報発信を行うと共に、各事業に対し、歯ブラシの管理・ブラッシング支援の強化に努めました。

また、これらの検診で所見のあった方には、通院の促しと後追いを行ない、家庭に対して健康に関する意識を高めてきました。

職員に対しては、職員朝礼や職員会議で千葉県が発令する感染症情報をこまめに発信しました。職員研修で、てんかんの基礎知識・発作時の対応と感染症の予防・対策についての知識を共有し、嘔吐物があった際の対応については実践を交えた確認を行ないました。

感染症の流行しやすい時期(11～2月)には、手洗い・うがいの徹底、咳エチケット（マスクの着用）などの呼びかけを行ない、集団感染の予防に努めました。

6月	健康診断
10月	内科検診
11月	職員研修 ・てんかんの基礎知識と発作時の対応 ・感染症の基礎知識及び予防・対策と汚物処理の実践研修
12月	千葉県による歯科保健巡回診療指導（ビーバー号）による歯科指導の実施。
年4回	あかねの集いにおける情報発信
毎月	保護者会における情報発信
適宜	医療台帳・服薬一覧の更新
	貸出し用衣類・傘及び汚物処理セットの管理
	園内掲示板における情報発信

②給食

栄養士管理の下、安全で栄養バランスが良く、美味しい食事提供を心がけました。また、味覚だけでなく、彩のある食事の盛り付けや食堂の雰囲気も含め、視覚的要素も重視し提供してきました。

あかね園の給食は内外からも高い評価の声を頂いており、園の大事なサービスの一端を担っています。

- ・利用者を交えての給食会議を2か月に1回実施し、嗜好の調査やリクエストメニューの聞き取り、昼食時のマナー等を確認する機会を設けました。
- ・広報誌（あかねの集い）を通じ、給食に関する情報を掲載しました。
- ・5月に習志野保健所による実地巡回指導があり、指導項目のカルシウム不足に関しては費用の兼ね合いもあり、各家庭において牛乳等の乳製品の積極的な摂取を保護者会等で呼びかけました。

③余暇支援

文化サークル（太鼓・刺し子・絵画・フラワーアレンジメント）とサッカーサークルに分かれ、毎月各1回の活動を行いました。参加対象者である、あかね園利用者とふれあい会の会員に年間予定や毎月のお知らせを発信し、多くの方に参加して頂く事が出来ました。

サッカーサークルでは、地域のスポーツクラブ NBS の協力を得て、活動場所となる小学校のグラウンドを安定的に確保することが出来ました。また、障害者サッカー連盟主催の大会に出場しました。

また、今年度はサッカーサークルの参加人数の低迷を踏まえ、取り組み内容の見直しを視野に入れた初めて「余暇サークルのスポーツ活動」についてのアンケートを実施しました。結果として、スポーツを行うサークルの必要性は明確となりましたが、内容はサッカー以外のスポーツにも興味や関心がある事がわかりましたので、次年度からの取り組みに反映させていきたいと思っております。

- ・文化サークル…毎回50名程度が参加。

【絵画】障害者雇用支援月間のポスター原画、船橋百景コンクールに応募しました。

パラリンアートサッカーコンテストの作品応募では、2名が入選しました。

【太鼓】納涼祭での成果発表。BGMなしで、太鼓の音のみが響き渡る新演目に挑戦中。

【刺し子】新しくコースター作りを始めました。希望者はバザーで作品の販売をしました。

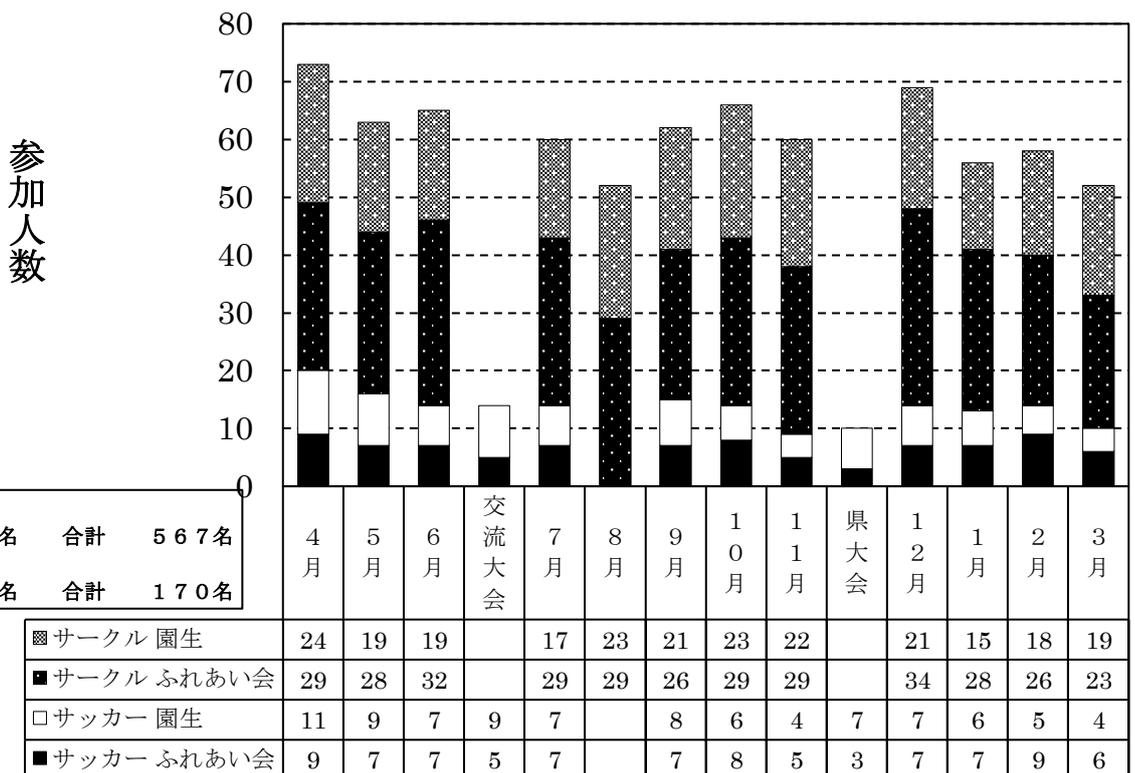
【フラワー】季節毎のフラワーアレンジメントに加えて、アクセサリートレイのデコパージュも制作。

- ・サッカー…毎回15名程度が参加。

【7月】千葉県知的障害者サッカー連盟 交流サッカー大会 （0勝2敗）

【11月】千葉県障害者スポーツ大会坂一競技の部 （0勝2敗）

平成28年度 余暇サークル・サッカー



サークル	平均 47.3名	合計 567名
サッカー	平均 13.1名	合計 170名

V. その他

(1) 職員研修（人材の育成）

利用者へのよりよい支援の提供を目指し、①全体研修・②小グループ研修・③個別研修の3つの形で研修を行ないました。今年度は幅広い世代の職員を担当に据え、現場の声を反映させながら研修を企画しました。

①全体研修・・・・・・・・全職員を対象に毎月第3水曜日の午後に外部機関見学や講義形式・体験形式の研修を行い、職員全体で情報や知識の共有を図りました。職員だけの防災訓練とその検証は職員の意識も高く、大変有意義な取り組みとなりました。

②小グループ研修・・＊経験年数別研修

グループを経験歴1～5年職員と役職者、世話人の3グループに分け、外部講師による研修等、昨年より回数を増やして行いました。支援の視点や視野を広げ、実際の支援に役立つ内容となりました。

＊法人内見学研修

他部署の取り組みを知ることを目的に、少人数のグループで、あかねホームや外班の見学を実施しました。グループホームはほぼ全職員が見学することができました。

③個別研修・・・・・・・・個別に外部主催のセミナーに参加し、専門的な知識や技術を学びました。又、学んだ内容を職員全体に発信し、情報や知識の共有を図りました。

月	全体研修内容	小グループ研修
		経験年数別研修
4月	新年度にあたって-I ①社会福祉法人について ②28年度予算/お金の流れについて ③制度と社会的背景・各事業概要について ④虐待防止と権利擁護について ⑤防災について	
5月	新年度にあたって-II ①法人の成り立ちと親の活動 ②あかね園の働く・暮らす取り組みについて ③作業支援について	講師：日本コンサルティング（株） ・文章の作り方研修（1～5年中心） ・人事考課研修（役職者中心） ・世話人ケース研修
6月	北総育成園 見学	講師：日本コンサルティング（株） ・タイムマネジメント（1～5年中心） ・人事考課研修（役職者中心）
7月	利用者対応について	
9月	防災について ①不審者対応 ②大地震への備えと心構え ③避難訓練と検証	世話人ケース対応研修
10月	企業見学 ①（株）ダックス ②（株）住商グローバルロジスティクス ③（株）武蔵野 ④（株）ヤマト運輸 ⑤リクルートクラフティングス	
11月	感染症とてんかんについて 嘔吐処理のシミュレーション	テーマを掲げての研修 本人の主体性の尊重（1～5年中心）
1～3月	総括/計画の話し合い	1月 テーマを掲げての研修 「合理的配慮について」

個人研修

研修内容	就業	専門知識	権利擁護	ホーム	給食	運営	その他	計
参加人数	3	12	2	6	1	4	5	33

(2) 会議（情報の共有）

利用者や家族のニーズが多岐にわたり、業務の幅の広がりとも動きも複雑化する中、情報の共有はサービスの質を図る上でも大切なものとなっています。

必要な情報が必要なところへ確実に届くよう、各会議の目的を明確に取り組みましたが、職員一人あたりの参加する会議の回数の多さや会議に参加する職員の人数が増えていることもあり、職員個々の各会議に対する準備性を高める必要性があります。

次年度は時間に対する意識を強化するために、開始時間や終了時間の遵守、発信内容を「わかりやすく且つコンパクト」等を全員が意識することで全体の業務効率化にも繋げる手立てを考えていきます。

主な会議実施一覧

会議名	開催日	対象職員
運営会議	毎週水曜日	施設長・就業支援課長・生活支援課長・管理課長・常務理事
担当部署会議	第一・第三木曜日	各部署の責任者
職員会議	毎月末	全職員
事業会議	毎月末	多機能型事業の全職員
多機能型事業会議	第一・第三木曜日	多機能型事業の正社員と契約社員
拡大事業会議	適宜	全事業の正社員と契約社員
就業支援課会議	月1回	施設長・就業支援課長・センター職員・就労移行サビ管・常務理事
ホーム運営会議	月1回	施設長・生活支援課長・管理課長・ホーム職員・常務理事
ケース検討会議	月2回	各事業職員・サービス管理責任者

(3) 権利擁護・虐待の防止

①権利擁護・虐待防止の取り組み

利用者に対する権利擁護や虐待行為の防止に対する理解の促進と万が一の際の早期発見と早期対応に繋げる為の体制を構築し、施設長を筆頭とした、全職員に対する啓発を実施してきました。

あかね園は家庭との情報共有や常に保護者が自由に出入りし、日中活動（訓練）の様子を目にすることができる環境を整え、「可視化」を図っていることもあり、この1年、内外からの虐待やそれに類する声は聞かれませんでした。今後も職員に対する教育や啓発活動に力を入れて行くと共に、より、実践的な取組とする為、第三者を交えた虐待防止、権利擁護体制の構築（虐待防止委員会の再編）にも力を入れたいと考えます。

- ・日々の業務での点検（チームによる支援、ケース会議等での情報の共有と助言）
- ・チェックリストの活用（定期的に利用者に対する人権を擁護出来ているかを客観的に自己評価する）
- ・職員研修での取り組み（全体研修での取り組みや各外部研修への参加と園内啓発）

②苦情解決・第三者委員会

今年度も各事業の責任者・担当者が主な受付の窓口となり、利用者・保護者から苦情・要望を受け付け、それを苦情受付担当者が集約する形をとりました。受付けた苦情は第三者委員会にて報告をしました。第三者委員の立ち合いを求めるような大きな苦情はなく、苦情総数は7件でした。

事業別苦情受付件数（別表①）

	利用者	保護者	その他	合計
自立訓練				
就労移行		1		1
就労継続B型		2		2
ホーム		2		2
支援センター		1		1
余暇活動				
その他			1	1
合計		6	1	7

苦情受付内容別件数（別表②）

苦情の内容	件数
職員の対応に関する事	1
支援内容に関する事	1
ホームの生活に関する事	1
情報伝達の不備	2
説明不足	
その他	2
合計	7

(4) その他のサービス

①送迎サービス

利用者が安心してあかね園に通い続けることを目的に登園、降園時または体調不良等による早退等、緊急的な対応も含めてサービスを提供してきました。

安全運転管理者指導のもと、繰り返し安全に対する啓発を実施してきたことにより、年間を通して大きな事故等もなく、終えることができました。

一方利用者、職員の園外での動きが複雑化していることや今後の利用者増が想定される中、職員の勤務時間に占める車輛運行時間が長期化しており、次年度に向けてはあかね園の日課や運行シフトを含め大きな見直しが必要と考えます。